2017 IFA 見学レポート

編集委員/パナソニック株式会社 春井 正徳(編集)

ドイツ・ベルリンで開催された IFA(Internationale Funkausstellung/国際コンシューマ・エレクトロニクス展)を見学したので報告する。IFA は 1924 年より開催されている世界屈指のコンシューマ・エレクトロニクス (CE) とホーム・アプライアンスの見本市で、近年は毎年メッセベルリンにて開催されている。オーディオメインの展示会ではなく、オーディオ関連の展示は 10% 満で、ハイエンドオーディオの展示はほとんど無く、最近は白物家電の割合が増えてきている。展示面積 $150,000\,\mathrm{m}^2$ という広大な敷地に 1,645 社が出展し来場者総数は 245,000 人。ピンと来ないかも知れないが、よく引き合いに出される東京ドームで言うと 3 個分の敷地に 1 階と 2 階に分かれて各社がブースを構えており、全て回るのに丸 2 日はかかる巨大さである。会場内には軽食を提供するスタンドも多く、また、コンサートや参加型のイベントなども開催されるため、特に休日にはそれを目当てに家族づれも多く訪れる。ドイツ国内では日曜日は通常、法律により店舗営業はできない事になっているが、IFA 開催期間の日曜だけはベルリン市内ではオープンするショッピングモールもあり、ベルリンあげての一大イベントであることがわかる。今年の一般向け開催期間は 9/1~6 だったが、その 1~2 日前には各社がプレスカンファレンスを開催し、各メディアはここでの内容を翌日までには Web 記事として発信する。

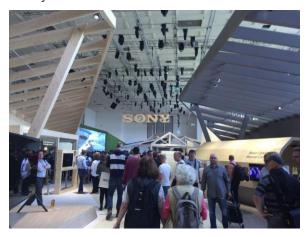
今年のオーディオの話題としてはスマートスピーカー、ワイヤレスイヤホンが多く、各社新モデルを発表し、プロトタイプの展示が目立った。

私自身が見学できたのは 9/1 のみで、会場の全てのブースを回ることが出来なかったため、見学できたブースに関してのみ報告する。





■ Sony



リビングダイニングキッチンを想定したスペースで Google アシスタントを搭載したスマートスピーカー LF-S50G のデモンストレーションを実施していた。このスピーカーは音声操作の他に音が 360 度に広がる構造となっており、室内のどこにいても良い音が聴けることが特徴。

また、キッチンでの使用も想定しており、防 滴やジェスチャコントロールの機能も搭載。そ の他、ノイズキャンセル機能を搭載したイヤホ ンやヘッドホンのラインナップが拡充し、左右

独立型ワイヤレスイヤホンの新商品展示もあり試聴可能となっていた。

さらに、ハイレゾ対応ウォークマン展示では Hi-Res と MP3 を端末で切替でき、音だけではなく、視覚的にもわかりやすいデモを実施していた。別ブースではタワー型スピーカーの MU・TE・KI (無敵) の試聴デモがあり、迫力のサウンドを体感できた。

また、CES に引き続き画面から音が出る TV の展示では、その音の出る仕組みをプラスチックの粒の振動で視覚的にもアピールしていた。



スマートスピーカーのデモ



ハイレゾプレーヤー展示



タワー型スピーカー MU・TE・KI



左右独立型のワイヤレスイヤホン



画面から音が出る TV



音の出る仕組みを視覚的に展示

■LG



入口は昨年同様、曲面 OLED-TV を天井一杯に配置し、水中や星空、宇宙などの映像を映像を写して入場者を出迎えていた。中心はやはりOLED-TV で、最上級モデルではガラスを使って画面がまるで宙に浮いていて、横から見ると1枚のブレードのような「Blade Slim」デザインのモデルが展示されており、画面下に置かれたサウンドバーのようなスピーカーは Dolby Atomos 対応をうたっていたが、残念ながらオープンスペースでの展示のため音は確認できな

かった。

CES でも発表のあった 360 度サウンドをうたう浮遊型 Bluetooth スピーカーPJ9 は浮遊型ではないものの、同じデザインで PJ2, PJ3, PJ8 とラインナップを拡充していた。中には防水(IPX7)対応のものもあり。 バッテリー持続時間は 10 時間とのこと。

試聴ブースとしては Dolby Atomos 対応サウンドバーのデモをしており、上方からの音が良くわかるような体験ができるものとなっていた。



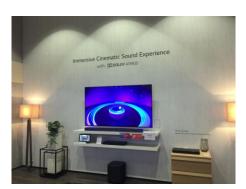
入口に天井一面の OLED



浮遊型スピーカー



入口に天井一面の OLED



Dolby Atomos 対応サウンドバー

■ YAMAHA



今回の目玉としてはやはり MusicCast が Amazon Alexa 対応したこと。ブースではコンポや Bluetooth スピーカー、サウンドバーや AV アンプなど MusicCast 対応製品群を大々的に 展開していて、これらを音声操作可能になる。

入口にはグランドピアノとともにピアノブラックのスピーカーNS-5000 の展示があり高級感を漂わせていた。特に興味を引いたのが、自動演奏グランドピアノとオーディオ機器を音声操作して同時に協奏させるリスニング提案。ピ

アノに内蔵された音源をピアノとそれ以外の音源にわけて演奏させることが可能とのことで、YAMAHA らしい連携と感じた。

昨年から引き続き Dolby Atomos 対応の YSP-5600SW を使った試聴デモもおこなっていた。 また、インテグレートアンプ A-S3000 を中心としたリビング展示での配線は"audio quest"製をアピールしているところもあり。



入口にグランドピアノと NS-5000



MusicCast 対応製品群



YSP-5600SW を使った試聴デモ



A-S3000 は"audio quest"での配線

■ SAMSUNG



こちらもブース入口には巨大な曲面ディスプレイを配置し入場者をお出迎え。例年通り広大なブーススペースを有し、体験イベントも多数開催されており、その順番待ちでかなりの人が列を作っていた。展示のメインとしてはTV、スマート家電(Family Hub)で、Spotifyとも接続可能な冷蔵庫のデモもあり。

AKG とのコラボしたヘッドホンコーナーではノイズキャンセル対応のヘッドホンの試聴が可能。この製品はプライベートキャリブ

レーションも可能とのこと。

変わったところでは絵画のように壁に掛けて、芸術作品や写真などのアート作品も観られるテレビを実際に博物館のようなブースで展示しており、近くには映していた絵画のポストカードが取り放題になっており、来場者の興味をそそる演出がされていた。

建物の外には変わった形で目を引く SAMSUNG カーがあり、中はちょっとした製品展示ギャラリーになっていた。



ブース入口に巨大な曲面ディスプレイ



スマート冷蔵庫



 AKG ブランドヘッドホンコーナ



博物館を模した壁掛けディスプレイ



外には SAMSUNG カー



■ONKYO&Pioneer



現在の主要 AI アシスタント 3 つに対応 する製品を展示。

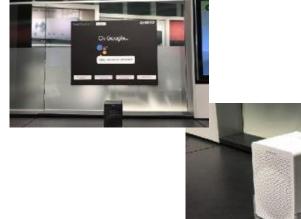
Alexa 搭載の P3 は DTS Play-Fi に対応 し、スマホ/タブレット用の操作アプリを用 いて、DTS Play-Fi 対応機器と連携した音 楽再生が行える。

Google Assistant 搭載のG3は従来の1.5倍の振幅量と強い駆動力のウーファーやバランスドーム型ツイーターを備え高音質を訴求。

Siri に対応し「Hey、Siri」コマンドが

使える、現在世界で唯一のデバイスとしてイヤホンの RAYZ、スピーカーホンの RAYZ Rally の展示。

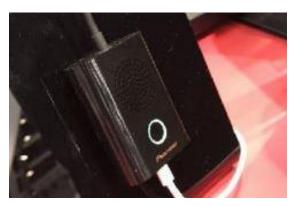




Google Assistant 搭載の G3



Alexa 搭載の P3



Siri に対応した RAYZ

■ Philips



全体的に落ち着いたデザイン・レイアウトで、各ブース「Better」をキャッチコピーとしていた。

ヘッドホンのデモコーナーでは、ギタリストが登場し、演奏が直接ヘッドホンから聞こえる演出で人目をひいていた。

完全独立型のワイヤレスイヤホン SHB4385は8.2mm径ドライバーを搭載。一 回の充電で約6時間の再生が可能。

各種 Bluetooth スピーカー展示もあり。



ギタリストの演奏をヘッドホンで試聴



完全独立型のワイヤレスイヤホン



各種 Bluetooth スピーカー展示

■B&O



壁掛けスピーカーシステムの展示



壁掛けアンプやスピーカーなどを自由に組み合わせて音楽再生ができるスタイリッシュなスピーカーシステム BEOSOUND SHAPE の展示が目を引く。CHROME CAST BUILT-IN対応で他の機器との組み合わせでマルチルーム対応可能であることも訴求していた

他にスピーカーの分解展示も積極的にされていたのが印象的だった。



スピーカーの分解展示

■ Panasonic/Technics



Panasonic は 8/30 にプレスカンファレンスを実施。Home AV では Google スマートスピーカーである SC-GA10 の商品発表があり、天井から GA10 が降りてきて小川役員による音声操作実演がおこわなわれた。

また、Technics ブランドとしては Reference Class Direct Drive Turntable SP-10R の開発 をすることが発表され、会場には多くのプレス 関係者が来場した。



SC-GA10 の商品発表



SP-10R の開発発表

展示では、SC-GA10 はガラス張りの特別ブースを用意して Google Assistant 機能だけではなく、音質・デザインも訴求し、多くの来場者を集めていた。



SC-GA10 のガラス張り特別ブース



Google 対応スピーカー SC-GA10

Technics では3つのライフスタイル展示と全商品ラインナップ展示を実施。その中でもプレスで開発発表を行ったターンテーブル SP-10R のモックアップと過去モデルやモータの展示コーナーには常に人だかりができていた。また、初のオールインワンとなる OTTAVA f (フォルテ) SC-C70 をプロローグやコンセプト・特長を展示とともに展示。ベルリンフィルとの協業によって生まれた商品であることもアピールしていた。



Applications of the second of

SP-10R のコーナーには常に人だかり

開発発表した SP-10R のモックアップ展示



16